



4月ようちえんだより

新しい年度が始まり、新入園児とその保護者の方々は少し不安な気持ちで、また進級する子どもたちは少しお兄さん、お姉さんになった気持ちで登園したかも知れません。キリスト教保育連盟は、今年度の年主題を「あふれる愛 - これからもともに - 」と決めました。私たちが子どもたちの成長に携わる時に、一番大切なことが愛情であることに間違いはありません。しかし、とすればその愛情の表現が、本当に子どもたちの成長に結びついたものであるかどうか、今問われているのではないのでしょうか。

将来困らないようにと、出来るだけ早い時期から様々な教育や習い事を子どもに与える親がいます。しかし、これもその時期とその与え方ひとつで、子どもの成長にとってはプラスにもマイナスにもなり得ます。また、躰が大事と考え、立ち振る舞いや佇まいを整えさせようと常に行動を指示している親もいます。「早く片付けなさい」「きちんと並べなさい」「ちゃんと挨拶しなさい」、そんな言葉がけを子どもが素直に受け止めて、その行動が本当に身についたものとなっていくのかどうかは疑問です。また、子どもに失敗させたくない、悲しい思いをさせたくないという思いから、子どもの行動のすべてを管理しようとする親もいます。たとえば親がその用意をしなればという意識で、「子どもが幼稚園に持っていく持ち物は、全部手紙で知らせて下さい」と申し出られる保護者の方がいます。しかし、幼稚園では先生が子どもに明日の持ち物を、言葉で伝えることもあります。そんな中で忘れ物をする子どももいるのですが、そのような経験を通して子ども自身も「話をちゃんと聞こう」「忘れないようにしよう」という意識も芽生えてくるのです。

乳幼児期の子どもたちの成長に一番大切なことは、何かが人より先んじて出来る様になることでも、親が子どもに先んじて何でも用意し整えることでもありません。子ども自身を信頼して、子ども自身が自分の力を使って成長していこうとしていることを見守ることが一番大切なのです。また、そのような中で子どもの心が育っていきます。そしてこの自分は愛されている、何があっても私は見捨てられないという心（自尊感情）が育ってこそ、自らの言動を自らが整えることが出来るのです。しかし、この心が育っていなければ、いくら言動を指示されても気持ちよくは出来ないものですし、そこに残るのは反発する気持ちであるかも知れません。児童精神科医である佐々木正美氏は、「子育てに大切なたった5つのこと」として、「1.遠くから見守る 2.ほほえみを返す 3.泣いたらあやす 4.出来るまで待つ 5.いっしょに遊ぶ」の5つのごく簡単な行為を述べています。そしてこれらの行為は、子どもを信頼すること、見守ること、急がせないこと、そしてどんな時でも受け入れるという安心感を子どもに与えることの大切さを説いているのだと思います。

子どもたちにとって幼稚園という世界は、親に頼ることなく、また先生の指示に従うだけでなく、自分で考えて自分の力を使って過ごす大切な環境です。子ども一人ひとりが、神様から与えられた自ら成長する力を十分に発揮することが出来る環境としての幼稚園でありたいと願っています。

年主題 「あふれる愛 - これからもともに - 」

<年主題聖句> 「わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」

(創世記 28 章 15 節後半)

4月主題 「であう」

聖句 “主は羊飼いとて群れを養う。”

(イザヤ書 40 章 11 節)